

# 楽天棚卸ツールの構成および作業手順について

2020-12-01 札幌藤野店

## ツール構成

楽天棚卸ツールは、下記URL・ファイルで構成する。

- ・ 楽天棚卸ツール（管理者用）  
<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/admin.htm>  
<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/admin/encoding.js>
- ・ 楽天棚卸ツール（端末用）  
<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/client.htm>
- ・ 楽天棚卸ツール（サーバ）  
<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/server.php>
- ・ 楽天棚卸ツール（統合用）  
<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/integrate.xlsm>

また、リポジトリ（棚卸データの蓄積場所）を下記URLで作成する。

- ・ リポジトリ  
<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/repository/>

## ファイル構成

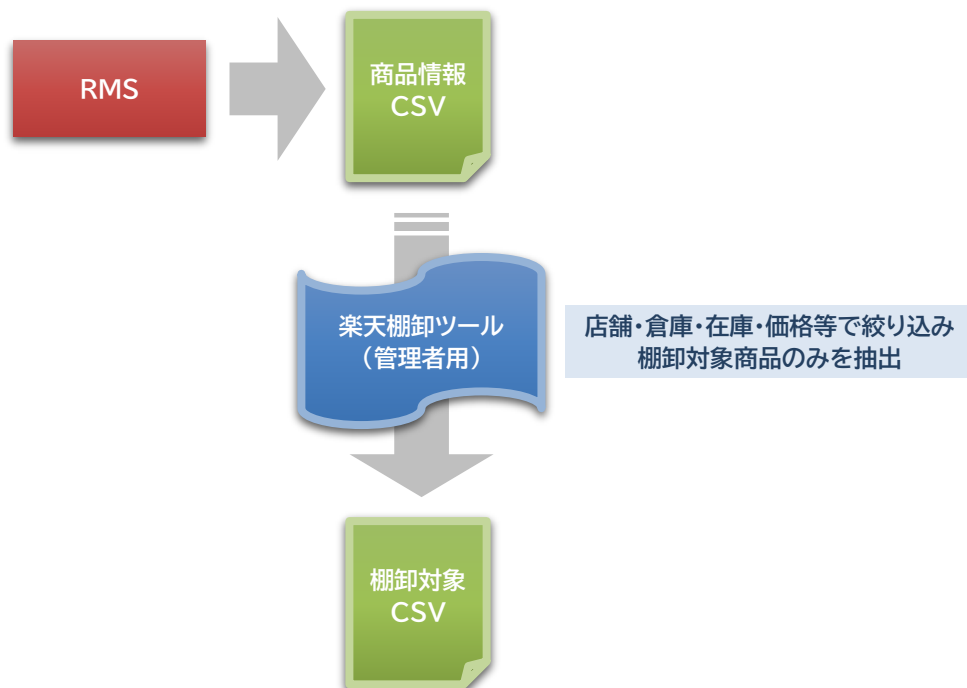
楽天棚卸ツールでは、下記ファイルを取り扱う。

- ・ 商品情報CSVファイル（RMSに登録されているすべての商品の商品情報）  
dl-itemyyyyymmddhhmm-nn.csv ※yyyyymmdd=処理日付、hhmm=処理日時、nn=処理通番
- ・ 棚卸対象CSVファイル（棚卸対象商品の商品情報のみ）  
sss\_rakuten\_yyyyyymmdd.csv ※sss=店舗、yyyyymmdd=基準日
- ・ 棚卸状況CSVファイル（サーバに蓄積されているすべての棚卸データ）  
download\_sss\_rakuten\_yyyyyymmdd.csv ※sss=店舗、yyyyymmdd=基準日
- ・ 棚卸結果CSVファイル（商品情報と棚卸データの統合結果）  
result\_sss\_rakuten\_yyyyyymmdd.csv ※sss=店舗、yyyyymmdd=基準日

## 作業手順

### ■事前処理

【作業フロー】



【商品情報CSVファイルのダウンロード】

- ・ [RMS](#)にログインし、トップ画面を開く。
- ・ 「店舗設定」→「1 商品管理」をクリックし、「商品管理」画面を開く。
- ・ 「一括編集機能」欄内の「CSV更新（変更・削除）」をクリックし、「■CSVファイルのダウンロード」画面を開く。
- ・ 「CSVファイルの項目を選択してダウンロード」をクリックし、「■商品情報カスタマイズダウンロード」画面を開く。
- ・ 下記5項目のチェックボックスをオンにし、「CSVファイルをダウンロード」ボタンをクリックする。
  - 商品名
  - 販売価格
  - 倉庫指定
  - 商品画像URL
  - 在庫数
- ・ 楽天FTPサーバの「/ritem/download」フォルダ配下に商品情報CSVファイル「dl-itemyyyyymmddhhmm-mm.csv」が作成されるのを待ち、当該ファイルをダウンロードする。

#### 【棚卸対象CSVファイルのダウンロード】

- ・ [楽天棚卸ツール（管理者用）](#)を開く。
- ・ 「ファイルを選択」ボタンをクリックし、商品情報CSVファイル「dl-itemyyyyymmddhhmm-*nn*.csv」を選択する。
- ・ 必要に応じて、抽出条件を各々指定する。このとき、「基準日」「店舗」の各欄の内容がダウンロード時のファイル名に反映される。

※棚卸対象CSVファイルのファイル名は、リポジトリを識別するための管理キーとして用いるため、特段の事情がない限り変更すべきでない。また、各端末にコピーする際や棚卸作業中にファイル名を変更してはならない。

- ・ 「実行」ボタンをクリックし、「商品一覧」画面を開く。
- ・ 抽出条件に合致したすべての商品が表示される。必要に応じて、フィルタ機能を用いて商品を検索し、該当商品の「棚卸対象」チェックボックスを操作するなどして、棚卸対象のすべての商品の「棚卸対象」チェックボックスをオンにする。
- ・ 「出力」ボタンをクリックし、棚卸対象CSVファイル「sss\_rakuten\_yyyymmdd.csv」をダウンロードする。
- ・ 必要に応じて、棚卸対象CSVファイルを各端末にコピーする。

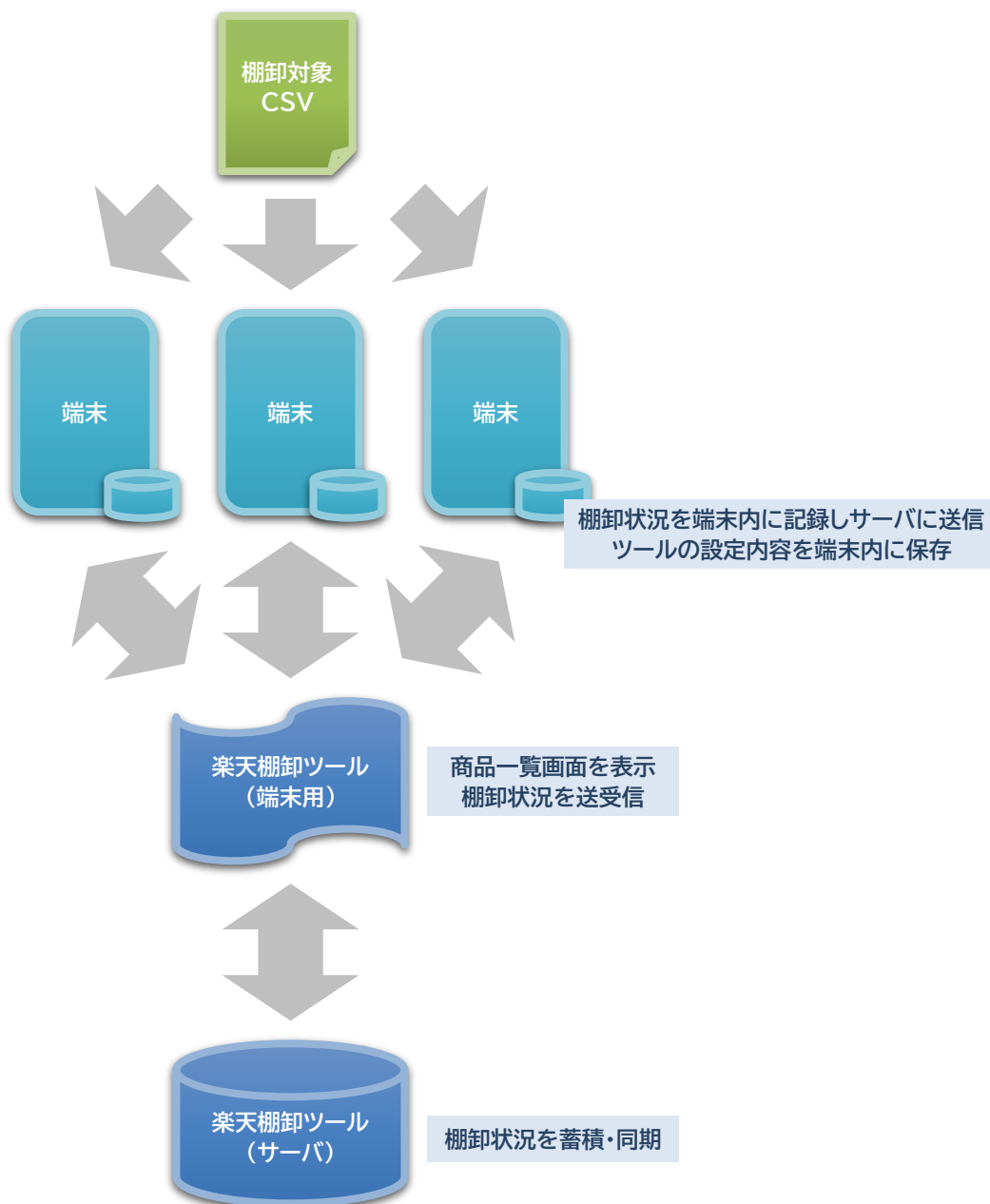
#### 【端末初期化】

※2020年11月30日以前に楽天棚卸ツールを使用したことのある端末や、過去の使用状況が不明な端末に対して、2020年12月1日以降の初回使用時にのみ実施する。

- ・ 各端末で[楽天棚卸ツール（端末用）](#)を開く。
- ・ 「≡」→「データ管理」をクリックし、「データ管理」画面を開く。
- ・ 「端末設定：データ」欄にある「消去」ボタンをクリックする。
- ・ 「全データを消去します。この操作は元に戻せません。」と記載されているポップアップ画面が表示される。「OK」ボタンをクリックする。
- ・ 「≡」→「ファイル」をクリックし、「楽天棚卸ツール（端末用）」画面を開く。
- ・ 「再読み込み」ボタンをクリックする。

## ■棚卸実施

### 【作業フロー】

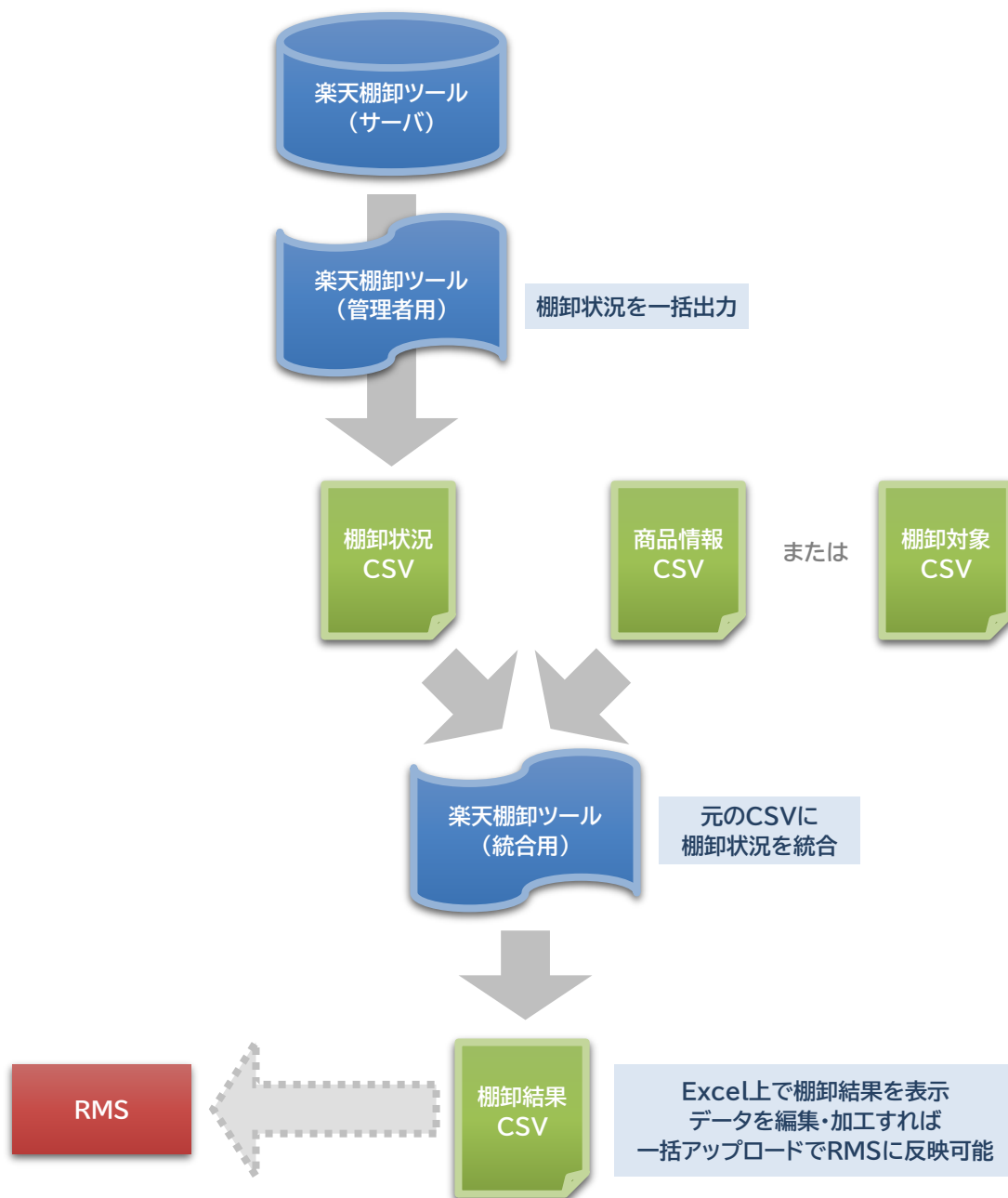


### 【作業実施】

- ・ 棚卸作業用の各端末で[楽天棚卸ツール（端末用）](#)を開く。
- ・ 「ファイルを選択」ボタンをクリックし、棚卸対象CSVファイル「`sss_rakuten_yyyymmdd.csv`」を選択する。
- ・ 端末を店頭に持ち込み、「商品一覧」画面を確認しながら棚卸作業を実施する。このとき、下記一連の処理により、サーバと各端末の棚卸データが定期的に同期される。
  - 端末では、棚卸データ（「棚卸」ラジオボタンの選択状態および「メモ」欄の内容）を変更した際、棚卸データを端末内に記録した上でサーバに送信する。また、サーバから最新の棚卸データを受信し、「商品一覧」画面に反映する。
  - サーバでは、端末から受信した棚卸データを蓄積し、最新の棚卸データを端末に送信する。

## ■事後処理

### 【作業フロー】



### 【棚卸状況CSVファイルのダウンロード】

- ・ [楽天棚卸ツール \(管理者用\)](#) を開く。
- ・ 「≡」 → 「データ管理」 をクリックし、「データ管理」画面を開く。
- ・ 「リポジトリ」欄で「sss\_rakuten\_yyyymmdd」([棚卸対象CSVファイル](#)のファイル名から「.csv」を除いたもの)を選択し、「データ形式」欄で「CSV」を選択する。
- ・ 「ファイル」欄の「ダウンロード」ボタンをクリックし、[棚卸状況CSVファイル](#)「download\_sss\_rakuten\_yyyymmdd.csv」をダウンロードする。

#### 【棚卸結果CSVファイルの生成】

- ・ 楽天棚卸ツール（統合用） をダウンロードし、Excelで開く。
- ・ 「商品情報CSVファイル/棚卸対象CSVファイル」「棚卸状況CSVファイル」の各欄の「選択」ボタンをクリックし、該当ファイルを選択する。
- ・ 「データ統合」欄の「開始」ボタンをクリックする。
- ・ 統合処理が完了すると、「名前を付けて保存」画面が表示される。
- ・ 棚卸結果CSVファイル「result\_sss\_yyyymmdd.csv」が生成される。

#### 【棚卸結果の確認】

- ・ Excelで棚卸結果CSVファイル「result\_sss\_yyyymmdd.csv」を開く。
- ・ 棚卸結果CSVファイルには、商品情報CSVファイルまたは棚卸対象CSVファイルのすべての内容に加え、下記4列が追加されている。
  - 棚卸
  - 棚卸更新日時
  - メモ
  - メモ更新日時
- ・ 棚卸結果を確認し、RMSの商品情報を修正する。

以上